

令和 7 年度 子どもたちの豊かな学校生活のために

～いじめ解消・暴力根絶旬間（第 1 回）～ の取組結果について

取組の目的

- 児童・生徒自身がいじめに気づき、いじめを自分のこととして考え、行動することをとおして、自らいじめを解消する力を身に付けること。
- 児童・生徒が主体的な取組を図れるよう各学校で創意工夫を図るとともに、いじめの実態を把握するためのアンケートを必ず実施し、いじめの未然防止と早期解決に向けた取組を強化し、地域・保護者への啓発を図ること。

実施期間

令和 7 年 6 月 1 日（日）から 6 月 30 日（月）の中で、適切な時期に 1 週間から 10 日間程度

1. 調査期間（令和 7 年 4 月 1 日から各校の調査期日まで）におけるいじめの認知件数

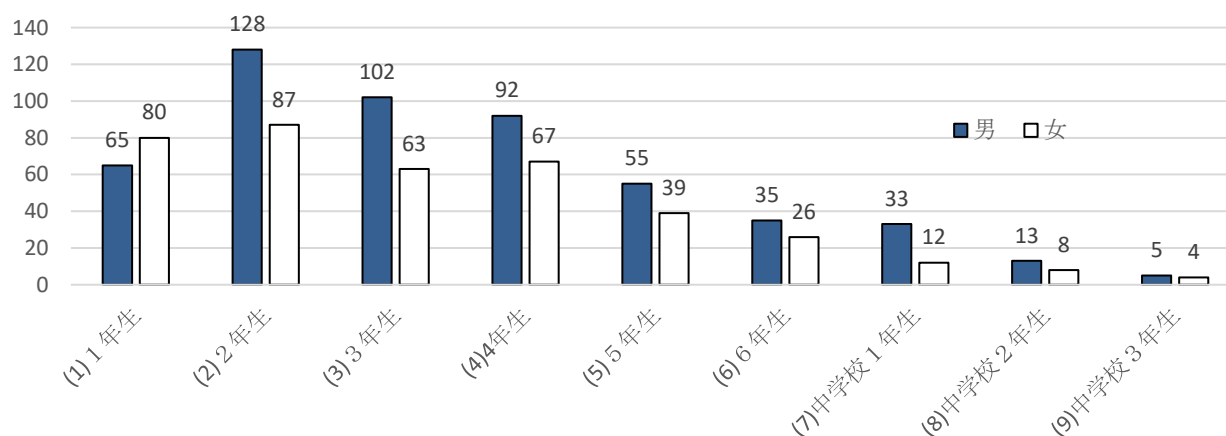
- ・小学校におけるいじめの認知件数 839 件であり、児童 1000 人あたりのいじめの認知件数は 97.5 件である。
【参考】過去同時期の調査…令和 4 年度 90.0 件、令和 5 年度 96.9 件、令和 6 年度 90.4 件
- ・中学校におけるいじめの認知件数は 75 件であり、生徒 1000 人あたりのいじめの認知件数は 19.8 件である。
【参考】過去同時期の調査…令和 4 年度 13.0 件、令和 5 年度 13.7 件、令和 6 年度 14.6 件

2. 調査期間におけるいじめの現在の状況

<いじめの解消率>（令和 7 年 7 月末現在）

- ・小学校におけるいじめの認知件数 839 件中、解消済は 781 件で解消率は 93.7%である。
- ・中学校におけるいじめの認知件数 75 件中、解消済は 61 件で解消率は 81.3%である。

3. 調査期間におけるいじめの認知件数の学年別、男女別内訳



- 児童・生徒 1000 人あたりの認知件数で比較すると、小学校・中学校ともに昨年から増加。
- 7 月末現在の解消率は、小学校は 9 割を越えている。中学校は約 8 割である。
- 認知件数は、男女とも小学校 2 年生が最も多い。全体として学年があがるにつれて減少する傾向がある。また、同じ校種内で、学校間による差が大きい。（小学校 0～232 件、中学校 1～24 件）

4. 調査期間におけるいじめの発見のきっかけ				
※4～6は有効数字の関係で合計が100%にならない場合があります。				
	小学校 839		中学校 75	
ア、学級担任	81	9.7%	1	1.3%
イ、学級担任以外の教職員	8	1.0%	0	0%
ウ、養護教諭	1	0.1%	1	1.3%
エ、スクールカウンセラー等の相談員	0	0%	0	0%
オ、今回のアンケート調査（A）	570	67.9%	57	76.0%
カ、本人からの訴え	132	15.7%	8	10.7%
キ、本人の保護者からの訴え	29	3.5%	6	8.0%
ク、本人を除く児童・生徒からの情報	14	1.7%	0	0%
ケ、本人以外の保護者からの情報	4	0.5%	2	2.7%
コ、地域の住民からの情報	0	0%	0	0%
サ、学校以外の関係機関からの情報	0	0%	0	0%
シ、その他（匿名の投書など）	0	0%	0	0%

5. (A) 今回のアンケートにより発見したいじめの態様 *複数回答可				
	小学校 641		中学校 66	
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	301	47.0%	33	50.0%
仲間はずれ、集団による無視をされる。	80	12.5%	7	10.6%
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	153	23.9%	14	21.2%
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0%	0	0%
金品をたかられる。	0	0%	0	0%
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	18	2.8%	2	3.0%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	60	9.4%	3	4.5%
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	3	0.5%	5	7.6%
その他	26	4.1%	2	3.0%

6. (B) 今回のアンケート以外で発見したいじめの態様 *複数回答可				
	小学校 321		中学校 40	
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	181	56.4%	9	22.5%
仲間はずれ、集団による無視をされる。	34	10.6%	1	2.5%
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	89	27.7%	5	12.5%
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0%	0	0%
金品をたかられる。	0	0%	0	0%
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	4	1.2%	1	2.5%
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	5	1.6%	1	2.5%
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	0%	22	55.0%
その他	8	2.5%	1	2.5%

- いじめ発見のきっかけは、小・中学校ともに「今回のアンケート調査」によるものが最も多い。また、一部、「学級担任」や「本人」、「保護者」、「本人以外の児童・生徒」も発見のきっかけになっている。
- 今後も定期的かつ継続的なアンケート実施により、いじめの早期発見・解決の徹底を図ることが重要である。一方、学年が上がるにつれて認知件数が減ることから、教職員が児童・生徒を注意深く観察したり、保護者に協力を呼びかけたりするなど、アンケート以外でも早期発見を意識した取組を行うことが重要である。
- いじめの態様では、アンケートによる発見・アンケート以外による発見のどちらについても、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」行為が概ね半数を占める。また、「パソコンや携帯電話等で誹謗・中傷や嫌なことをされる」行為が小・中学校ともに増加傾向であり、SNS上のトラブルの未然防止を図る必要がある。
- 児童・生徒のコミュニケーション力の向上を図るとともに、トラブルの未然防止や解決を図るための「自己指導能力」の育成について学校が注力していけるようにする。

7. いじめ解消・暴力根絶旬間における学校の具体的な取組 * 自由記述

小・中学校共通

- ①全校朝礼などで校長や生活指導主任による講話を行った。
- ②全校朝礼や学年集会を受けて、各学級で学級担任からいじめの防止に関する講和を行った。
- ③委員会などが主導でいじめ防止・暴力根絶のためのポスターを作成して、掲示した。
- ④いじめ防止対策委員会を定期的を開催するなどして、情報を学校内で共有した。
- ⑤教職員向けの研修会を実施した。（組織的な対応の仕方、いじめ対策本部について、コンプライアンス目標づくりなど）
- ⑥アンケート結果をもとにした個別の事案に関する聞き取りの実施。
- ⑦「特別の教科 道徳」を中心にいじめ防止の授業を実施した。（友情・親切・生命尊重など）
- ⑧保護者会で学校いじめ防止基本方針を説明した。
- ⑨社会労務士や弁護士によるいじめ防止授業を実施した。

小学校

- 学年の実態に合わせた言葉遣いの指導。（ふわふわ言葉、ちくちく言葉、絵本の読み合わせ等）
- 代表委員会の児童がハートフルエピソードを話し、温かい言葉や行動についての理解を深めた。
- 毎日、児童に声掛けを実施することで相談しやすい関係や雰囲気を作った。
- 毎月第3木曜日を「いじめみのがさあずでい」に設定し、校内放送で、いじめ防止に関する内容を放送で呼びかけた。

中学校

- いじめ相談窓口を設置した。
- スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーなどの相談できる環境を紹介した。
- クラスメイトにありがとうメッセージを書く活動を行った。
- 教職員に対して、いじめ早期発見チェックシートを学期ごとに行い、気になる生徒を抽出した。

- ①～⑨については、小・中学校ともに複数の回答が見られた項目である。校種による違いはあるが、未然防止・早期発見・早期対応ができるように共通して取り組んでいる項目が多く見られた。
- 保護者会などで学校いじめ防止基本方針を周知することが、昨年度は小学校のみの実施であったが、今年度は共通して行われるようになった。校種を超えて、他校の実践を参考にした取組の成果と言える。
- 昨年度に引き続き、小・中学校ともに、児童・生徒の居場所づくりや人間関係形成、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。いじめ防止だけでなく、不登校児童・生徒への支援という意味からも、こうした取組を今後も継続して行っていく必要がある。
- 教職員向けの研修会も実施されており、教職員の意識向上にもすすんで取り組んでいる。